

有識者からの意見等

弘前大学 福田学長

- ① 県病、市病の**外来患者の通院手段**（自家用車、公共交通機関）の**分析**。可能であれば、**圏域外からの移動手段**。
- ② 八甲田大橋と中央大橋経由のルートでの**渋滞分析**が必要。
- ③ 現状でも渋滞がある中で、患者・職員の通院・通勤により**交通量が増えることへの解決策**。
- ④ 南側のアクセス道路が片側1車線では、右折車両によって渋滞が必至。**短期間で道路拡幅は可能なのか**。（民有地の立ち退き等で時間が掛かるのでは）
- ⑤ **高架や地下自動車道といった提案**について、住宅地のど真ん中に建設は**不可能ではないか**。
- ⑥ 線路、アリーナがあることで、**有効な敷地面積が減ることはないか**。
- ⑦ **病院に付帯する施設**（駐車場、院内保育施設、看護師宿舎、研修医宿舎など）の**ための敷地は確保できるか**。
- ⑧ セントラルパークの周辺はほぼ民有地となり、**院外薬局を開設するスペースに課題がある**のではないか。
- ⑨ 大学病院の敷地面積は41,808㎡（臨床研究棟含めても44,300㎡）で、これまで移転せずに再開発している。そこそこの敷地があれば40年後の再開発にも対応可能。

第4回共同経営・統合新病院整備に係る有識者会議 参考資料2

乳がんピアサポートBECあおもり 佐藤氏

- ① **患者さんの来院方法**（バス、自家用車、知人・友人・施設の車等）
- ② **職員の来院方法**
- ③ 外注業者社員数（清掃・リネン・資材管理・事務等）
- ④ 外注業者来院方法
- ⑤ 青い森鉄道時刻表
- ⑥ 新駅利用見込み数

弘前大学 片岡教授

- ① 地震については、被害想定結果に用いた地震動分布や津波高さをもとに議論しているが、想定に基づいた**地震の発生確率を提示してほしい**。
- ② 現在の県病周辺にある「病院業務を行うにあたって必要な施設」の面積はどの程度か。
※院外薬局、スタッフ公舎、院内保育所等
- ③ ヘリコプターの稼働について
 - ・県庁北棟に降りるヘリとドクヘリの**同時運航は可能な**のか。
 - ・災害時には行政業務でのヘリコプター利用も考えられるとすると、県庁・病院・空港で同時にヘリが稼働している可能性があるのではないか。
 - ・自衛隊の駐屯地には降りないのか。

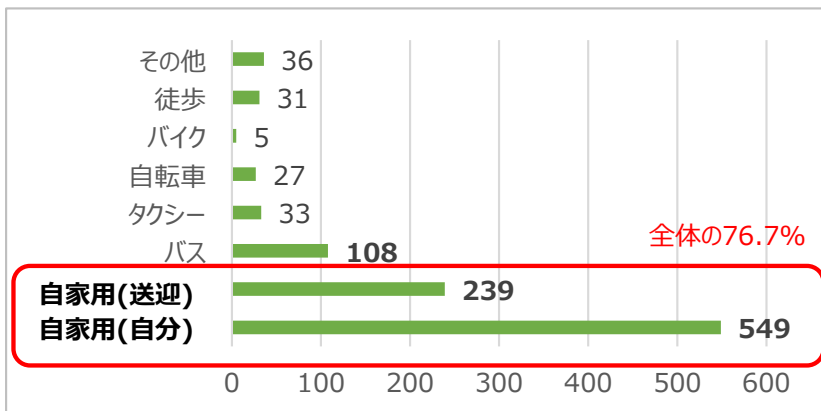
有識者からの意見等に対する回答

患者の交通手段（アンケート結果）

- ◆ 外来患者 【自家用車(送迎含む)】：76.7% 【バス】：10.5% ※途中、電車を利用した方 1.2%
 - ◆ 青森圏域外からの外来患者 【自家用車(送迎含む)】：83.7% 【バス】：7.1% ※途中、電車を利用した方 4.1%
- <参考> 1日平均外来患者数（R5実績：1,916.3人）をベースとした推計
 【自家用車(送迎含む)】：1,470人 【バス】：201人

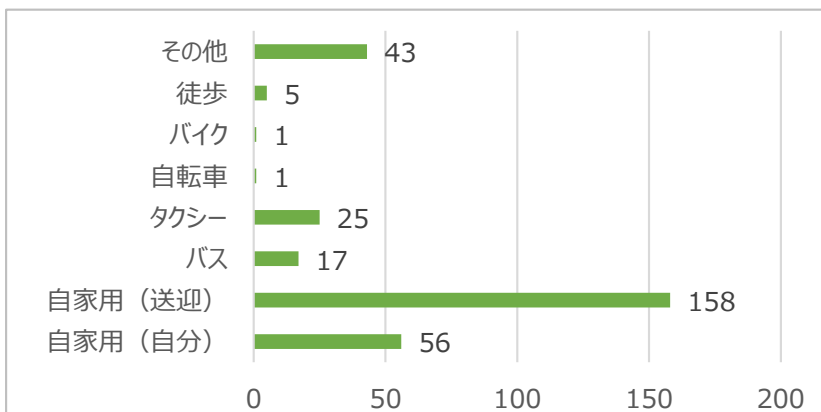
実施日	【入院】令和6年4月10日（水） 【外来】令和6年4月10日（水）～4月16日（火）の平日5日間
回答数	【入院】 307人 【外来】 1,030人 ※2病院合算

①交通手段（外来・入院）



(外来)

※1,030人中1,028人
(2人未回答)
※電車利用者12人

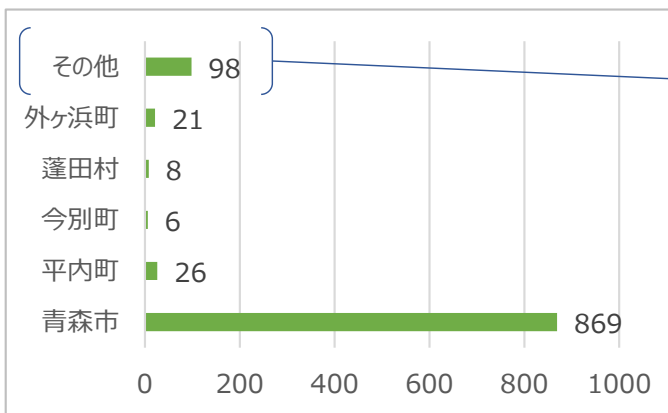


(入院)

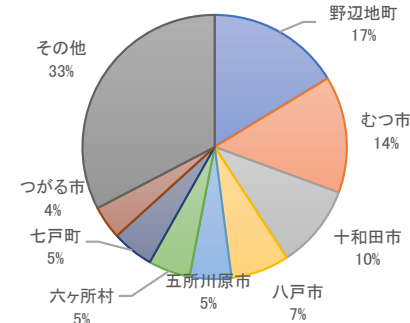
※307人中306人
(1人未回答)
※電車利用者8人

※途中、電車を利用した方 20人（外来12人、入院8人）

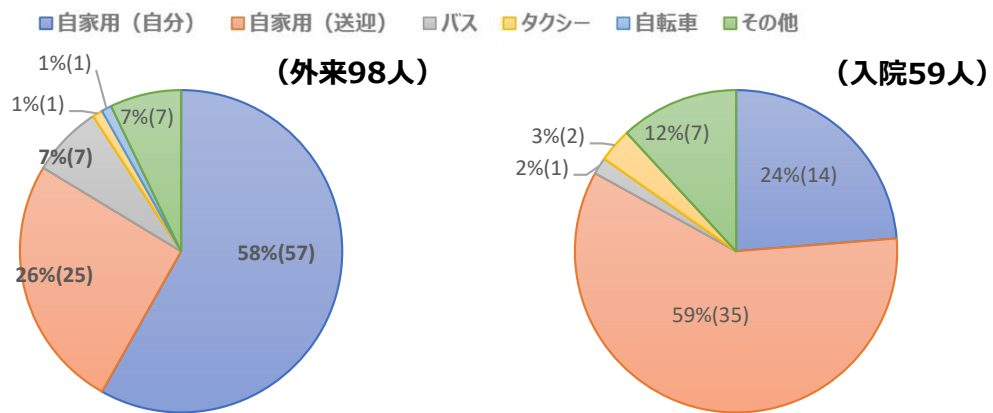
②住居地別の回答者数（外来）



【青森圏域外居住者の割合】



③青森圏域外居住者の交通手段



※途中、電車を利用した方：外来4人・入院5人

【内訳】八戸市3人、
藤崎町、七戸町、むつ市、三沢市、野辺地町、東北町（各1人）

【病院職員の通勤方法】

※通勤方法：通勤距離2キロメートル以上の職員の通勤届ベース（令和5年11月1日現在）

	全職員数 (非常勤含)	通勤方法		
		自家用車	バス等 交通機関	自転車
県立中央病院	1,582	877	117	5
青森市民病院	725	331	80	55
計	2,307	1,208	197	60

【外注業者の社員数、来院方法】

※建物保守、医事、給食、清掃、院内保育所、物品管理等

	総従事者数	通勤方法						(参考) 1日当たり従事者数
		車	バス	電車	自転車	徒歩	その他	
県立中央病院	430	239	93	6	50	41	1	350
青森市民病院	192	99	20	1	31	34	7	134
計	622	338	113	7	81	75	8	484

【新駅の利用見込みについて】 ※令和3年6月県議会での答弁から抜粋

- ・令和元年度の乗車人員を基に推計した新駅乗車人員は、**1日当たり約900人程度**（筒井駅とほぼ同等）
- ※内訳は青森操車場跡地周辺の居住者や、事業所、学校等への通勤・通学者であり、その約半数は青森駅と筒井駅から転換すると推計したもの
- ※青い森鉄道（青森～野内の各駅）の本数は1時間に1本程度（平日朝の通勤時間帯のみ4本程度）

- ② 八甲田大橋と中央大橋経由のルートでの渋滞分析。
- ③ 患者・職員の通院・通勤により交通量が増えることへの解決策。
- ④ 南側のアクセス道路が片側1車線では、右折車両によって渋滞が必至。短期間で道路拡幅は可能なのか。

<将来交通量推計及び交通量分析> (令和4年度実施)

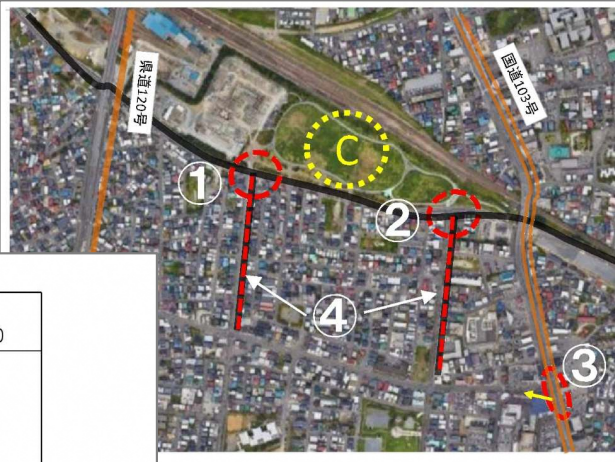
- ・国道103号(八甲田大橋) : 減少
- ・県道120号(中央大橋) : 横ばい
- ・セントラルパーク東西道路 : 3~4千(台/日)の増加見込み

<渋滞対策>

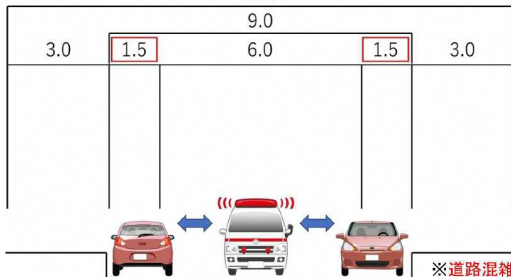
・セントラルパーク東西道路については、R5.12月に開通したことから、**今後、実際の交通量を調査した上で、詳細なシミュレーションを行い、具体的な渋滞対策を行っていく。**

<青森市の整備場所等検討会議で示した対策>

- ①② 病院への入口を2か所に分け、入口交差点に右折レーンを設置
- ③ 国道103号の桂木四丁目交差点に右折レーンを設置
- ④ バスや緊急車両の通行を考慮し、**既存道路の車道を拡幅**(新たな用地取得は見込まず)



≪道路拡幅のイメージ≫



⑤ 高架や地下自動車道といった提案について、住宅地のど真ん中に建設は不可能ではないか。

・費用対効果や工期等を考えた場合、セントラルパーク北側からのアクセス確保を目的とした**青い森鉄道の線路の高架化や地下道の整備といった提案は、現実的ではない**と考えている。

・いずれにしても、セントラルパーク周辺の**渋滞対策については、今後具体的な対策の検討が必要**と考えている。

⑥ 線路、アリーナがあることで、有効な敷地面積が減ることではないか。

・線路は青い森鉄道の敷地、アリーナは市有地内であり、有効な敷地面積(セントラルパーク南側の県有地約7.4万㎡)に影響はない。

・線路敷地付近に整備する場合は日影規制の緩和があり、建物の高さが有利となる。

⑦ 病院に付帯する施設(駐車場、院内保育施設、看護師宿舎、研修医宿舎など)のための敷地は確保できるか。

・セントラルパーク一帯は建蔽率が60%(準工業地域)となっており、県有地の面積約7.4万㎡のうち約4.4万㎡に**建物の配置が可能**である。

・現時点で整備する付帯施設やその規模等は未定だが、**駐車場等を立体化・複合化することで対応可能**と考える。

・配置を計画的に行うことで、将来的な建て替えを行うことが可能と考える。

⑧ セントラルパークの周辺はほぼ民有地となり、院外薬局を開設するスペースに課題があるのではないか。

・セントラルパーク南側道路付近には、空地がいくつか点在しているのを確認している。

(参考) 県病前の薬局の面積

敷地面積 : 約300~1,200㎡

建築面積 : 約160~350㎡

(1) 現在の県病関連施設の面積

用途	敷地面積 (㎡)	建築面積	延べ面積
病院本体	43,943.76	12,059.09	59,468.29
院内保育所		581.86	581.86
書庫・カルテ庫		370.00	370.00
バス停		8.10	8.10
医師独身寮 (善知寮) 看護師宿舎 (青々寮)		1,237.18	2,228.93
東公舎		173.81	746.04
南公舎	1,738.00	382.32	382.32
西公舎	1,125.32	465.29	719.44
沢田公舎	1,553.13	465.29	719.43
立体駐車場 (患者用)	6,370.46	3,212.14	9,551.31
計①	54,730.67	18,955.08	74,775.72
ヘリポート・格納庫	11,853.10	348.00	342.00
平面駐車場 (職員用)	27,246.36	-	-
ファミリーハウスあおもり	434.92	110.42	220.84
計②	39,534.38	458.42	562.84
合計 (①+②)	94,265.05	19,413.50	75,338.56

(再掲) 県病前の薬局の面積

敷地面積 : 約300~1,200㎡

建築面積 : 約160~350㎡

(2) 想定に基づいた地震の発生確率

① 東北地方太平洋沖型

≪超巨大地震≫

地震の規模 : M9.0程度

地震発生確率 : 30年以内に、ほぼ0%

平均発生間隔 : 550年~600年程度

最新発生時期 : 2011年3月11日

≪プレート間巨大地震≫

地震の規模 : M7.9程度

地震発生確率 : 30年以内に、10%~30%

平均発生間隔 : 97.0年

最新発生時期 : 1968年5月16日

≪ひとまわり小さいプレート間地震≫

地震の規模 : M7.0~M7.5程度

地震発生確率 : 30年以内に、90%程度以上

平均発生間隔 : 8.8年

② 青森湾西岸断層帯 (入内断層)

地震の規模 : M7.3程度

地震発生確率 : 30年以内に、0.5%~1%

平均活動間隔 : 3000年~6000年

最新活動時期 : 不明

(政府地震調査研究推進本部HPより引用)

(3) ヘリコプターの稼働について

① 県庁北棟に降りるヘリとドクヘリの同時運航は可能か。

⇒同時運航は**可能**。

衝突回避は各機の機長の責任で行われる。 空港の管制範囲の場合は管制と、範囲外の場合は122.6MHzの航空機相互通信波で進入方向、高度、旋回方向などをアナウンスして他機に知らせ、不都合がある場合は相互にやりとりして高度調整などで衝突を回避する。

特に報道ヘリなどは密集しやすいので、各社が申し合わせのうえ運航している。

② 災害時には行政業務でのヘリコプター利用も考えられるとすると、県庁・病院・空港で同時にヘリが稼働している可能性があり、支障はないか。

⇒複数の同時運航は**通常行われている**。

③ 自衛隊の駐屯地には降りられないのか。

⇒**法律上は自衛隊基地でも可能**。

離着陸の許可を受けていない場所において離発着を行うドクターヘリの運航については、これまで消防機関等の要請（捜索又は救助）を受けた場合であれば、航空法施行規則第176条の特例措置として離着陸を可能としていたが、同条の改正に伴い、消防機関等との連携によらないで活動する場合であっても、離着陸を行うことが可能となっている（他県でドクターヘリの自衛隊基地内における離着陸事例あり）。

《参考》主な病院の敷地建物概要《第2回検討会議資料抜粋》

(1)800床～900床を有する自治体病院の敷地面積等

病院名		病床数	敷地面積	本体建築面積	延床面積	地上階数	駐車場	駐車台数	主な敷地内建物等(駐車場除く)
東京都	東京都立駒込病院	815	33,805㎡	12,481㎡	83,636㎡	14	平面	242	病院本体
岐阜県	大垣市民病院	817	37,645㎡	20,805㎡	86,057㎡	10	平面	84	病院本体(救命救急センター別棟)※敷地外駐車場平面932台有
愛知県	豊橋市民病院	800	96,646㎡	24,010㎡	68,132㎡	9	平面	970	管理棟、診療棟、手術センター棟、病棟、塔屋
大阪府	大阪急性期・総合医療センター	865	40,693㎡	19,917㎡	90,179㎡	12	平面/立体	119/306	病院本体、障がい者医療・リハビリテーションセンター
和歌山県	和歌山県立医科大学附属病院	800	56,520㎡	12,269㎡	89,830㎡	13	平面/立体	41/597	病院本体、塔屋、ドクターヘリ(屋上)
愛媛県	愛媛県立中央病院	827	33,679㎡	16,283㎡	95,470㎡	12	平面/立体	14/672	診療棟、管理棟、PETセンター、塔屋、ドクターヘリ(屋上)

(2)北海道・東北地区の基幹災害拠点病院の敷地面積等

病院名		病床数	敷地面積	本体建築面積	延床面積	地上階数	駐車場	駐車台数	主な敷地内建物等(駐車場除く)
北海道	札幌医科大学附属病院	922	23,718㎡	16,327㎡	92,632㎡	13	平面	327	病院本体、塔屋
岩手県	岩手医科大学附属病院	1,000	146,920㎡	11,181㎡	86,610㎡	11	平面	543	病院本体、コンビニ・カフェ棟、健康増進施設、保育園、ドクターヘリ(地上)
岩手県	盛岡赤十字病院	398	81,087㎡	16,041㎡	32,970㎡	5	平面	320	病院本体
宮城県	国立病院機構仙台医療センター	660	56,009㎡	15,190㎡	61,614㎡	11	平面	400	病院本体、研究研修棟、設備棟、保育所、ドクターヘリ(地上)
秋田県	秋田大学医学部附属病院	615	43,379㎡	14,148㎡	56,044㎡	8	平面/立体	360/99	病院本体、管理棟
山形県	山形県立中央病院	609	106,649㎡	16,569㎡	63,483㎡	9	平面	700	病院本体(救命救急センター別棟)、ドクターヘリ(地上)
福島県	福島県立医科大学附属病院	778	129,567㎡	24,572㎡	93,832㎡	10	平面	895	病院本体、託児所、宿舎など、ドクターヘリ(地上)

(3)県内の主な病院の敷地面積等

病院名		病床数	敷地面積	本体建築面積	延床面積	地上階数	駐車場	駐車台数	主な敷地内建物等(駐車場除く)
青森県立中央病院		684	54,717㎡	11,746㎡	59,131㎡	10	立体	490	病院本体(救命救急センター別棟)
八戸市立市民病院		628	85,937㎡	23,288㎡	56,201㎡	7	平面	600	病院本体
弘前大学医学部附属病院		636	43,864㎡	20,112㎡	93,952㎡	9	平面/立体/地下	114/223/123	病院本体(高度救命救急センター別棟)、看護師宿舎
青森市民病院		459	18,684㎡	10,416㎡	36,310㎡	7	平面	308	病院本体
つがる総合病院		438	13,874㎡	6,198㎡	36,872㎡	10	立体	401	病院本体
むつ総合病院		384	47,673㎡	14,913㎡	44,951㎡	6	平面	408	病院本体 ※新病院ベース